

令和3年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修

工作部門 機械加工技術班 原 明慶

1. はじめに（目的等）

国立大学の技術職員として、職務遂行に必要な基本的、一般的な知識および新たな専門知識、技術等（電子回路設計や電気工事の業務を行うにあたって必要な半導体部品の知識）を習得し、職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

2. 期間・場所

期間：令和3年8月25日～8月27日

場所：オンラインでの開催のため、フェニックスファクトリー電気製作室にて受講した。

3. 参加者等

受講者 36名

4. 研修内容

8月25日 研修内容

講義1時間：知的なモノを作る技術 技術職員・教員・企業のコラボレーション

講義1時間：津波の観測と予測

講義1時間：情報セキュリティ対策 その設定の理由

8月26日 研修内容

実習（オンライン）1時間30分：LEDの試作とその特性評価

8月27日 研修内容

講義1時間15分：パワハラ防止法の要点と対策

発表1時間：各校代表者発表 徳島大学・阿南工業高等専門学校（業務の現状等）

5. まとめと感想

研修に参加して多くの技術・知識を得ることが出来た。特に「LEDの製造過程」と「パワハラ防止法の要点と対策」は参考になった。

LEDの製造過程はLEDを製造するところをteamsで見た。材料の加工と処理方法、そして使用する装置の使用法を知ることができた。LEDの製造過程の最後の手順では、切り出した半導体に電流が流れる細いワイヤー状の線を接合するところがあったが、とても切れやすそうな細いものだった。このことから、LEDは流す電流には細心の注意を払わないと、ワイヤー状の線を焼き切ってLEDを破損させてしまう恐れがあると感じた。このことは実際に製造過程を見たからこそ実感できたと思う。

「パワハラ防止法の要点と対策」では、パワハラの起こる原因とパワハラが起きにくくなるようなコミュニケーション方法を知ることができた。その方法とは、アサーティブコミュニケーションというも

ので、相手に自分の意見を押し付けず、相手の言いなりにもならない、自分も相手も大切にできるコミュニケーション方法である。今回の研修ではその方法を知ることができた。

この研修を受けたことで、将来自分が部下を指導する立場になったときに上記のコミュニケーション方法が活かせると考えられる。